

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
小学部	(1)	児童の十分な実態把握のもと、健康や安全に配慮した生活環境の整備に努め、児童の健康や体力の維持・向上に努める。	学部内でヒヤリハットの情報共有し、学校事故の防止に努める。また、緊急対応マニュアルの作成を行い、最新のマニュアルを教師間で確認し合う。	1-①②③	B	<p>○学部内で起こったヒヤリハットを主任会や学部会で確認し合う機会を設けた。</p> <p>○各学年で児童の体調に関する情報を収集し、必要に応じて緊急対応マニュアルの作成、修正を行った。</p> <p>●学部内でヒヤリハット事例が起こった際は、迅速に原因と改善策をまとめ、共通理解を図る時間を設定し、より安全な支援体制作りに努める。</p> <p>○学部教材係が教材室の整理整頓を行った。修繕が必要な備品や設備について、各学年から主事に報告があり、迅速に修繕依頼をすることができた。</p> <p>◇廃棄する教材教具、備品を振り分け、定期的に処分していくようにする。改修が必要な設備の改善を相談していく。</p>
		教室や廊下の整理・整頓、教材室の安全確認を定期的に行い、危険箇所の早期発見や改善をしていく。	2-①	B		
	(2)	児童一人一人の興味関心や教育的ニーズを把握し、保護者や各種関係機関と連携しながら、個の目標に応じた手だての検討を行い、系統的な指導を行う。	個別面談や保護者会、医療機関・福祉機関と連絡ノートを活用し、児童の日々の体調の変化や必要な支援について確認したり、必要に応じてケース会議等を有効に行ったりして個々の課題について連携を図りながら対応していく。	1-① 2-②③	B	<p>○各学年で児童の体調を見取り、保護者と必要な支援について連絡や相談をしながら支援ができた。</p> <p>○児童の支援内容によって、学年、主事だけでなく、Co.、保健主事、管理職にも相談し支援の方向性を話し合うことができた。</p> <p>●各学年で検討が必要な支援内容について、主任会、学部会で共通理解を深め、学部全体で支援にあたる体制作りを行う。</p> <p>○学習グループ会で、授業計画、個々の目標に対する支援方法等、共通理解を図りながら授業実践ができた。</p> <p>○児童一人一人の実態に合わせた教材教具、ICT機器を活用した授業を実践できた。</p> <p>●縦割り授業での指導目標、授業準備等の話し合いの充実をより図っていく。</p> <p>◇授業目標に合わせて、直接的な授業とオンラインを活用した授業の活用、効果的なICT機器活用について理解を深めていく必要がある。</p> <p>●学部内、他学部と系統的な学習計画について検討していく。</p>
			教科の内容・系統性を踏まえた指導、教材教具の工夫、児童の実態や課題に応じた学習形態の設定に努める。(連携のとれたT・T指導の充実や自立活動メニュー表の更新と活用、有効的なICTの活用など)	2-①②③	B	
	(3)	児童一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	児童一人一人を認め、自信や自尊心を育んだり、様々な体験学習を通して経験を増やしたり、感性を引き出したりできるよう、指導方法を探求する。	2-①②③ 4-①④	B	<p>○休校中は、個別の課題の郵送やオリジナルの動画配信を行い、学びを止めることなく進めることができた。</p> <p>○学部内の行事(対面式やALT、送る会等)、交流活動(オンラインによる学校間交流、異学年交流、居住地校との間接・直接交流)を実施し、人と関わる機会や相手とのやり取りを学ぶことを実践できた。</p> <p>●相手校との理解を深め、交流機会を増やす工夫をしていく必要がある。また、お互いが尊重し合う気持ちを育てる学びの機会とするための授業計画(直接交流、間接交流、オンラインによる交流)を検討していく。</p>
			各種交流活動や合同学習を計画的に実施し、人とかかわる力や豊かな心を育成する。(地域交流、学校間交流、居住地校交流、さわやかマナーアップ運動、花いっぱい活動、なかよしタイム(異学年交流)、他学年との合同学習など) ICT機器を取り入れながら、有効な交流方法を検討する。	3-① ③④	B	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善		
中学部	(1)	ア	教室やグループ室などの学習環境の整理・整頓を心がけ、活動しやすい環境整備に努め、事故の未然防止に努める。また、教材教具の点検を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②	A	<p>○生徒が使用する全ての場所の清掃や消毒とともに、学習内容や生徒の実態に応じて、教室環境やプレイルームの整理整頓をし、学習しやすい環境を整えることができた。</p> <p>○保護者と個別面談や日々の連絡帳を通して、生徒の変化や自立活動の目標について共通理解を図り、健康の維持と体力の向上に努めることができた。</p> <p>●次年度以降も、安全で安心して学習ができるように環境整備を進めていく必要がある。</p> <p>●健康の保持増進に関する学習内容の変更について、保護者との共通理解が足りなかった事案があった。次年度以降は、学習内容の変更が生じた場合は、保護者と共通理解を図ってから取り組んでいく。</p>	
		イ	保護者や外部専門家、主治医、看護職員と連携を図りながら、個々の実態に応じた自立活動の計画を立て、健康の維持と体力の向上を図る。	1-① 2-③	C		
	(2)	ア	個別面談や日々の連絡帳によるやり取りから、生徒や保護者の教育的ニーズを把握し、個々の実態に応じた自立と社会参加に向けて、保護者と連携して個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成して個に応じた学習支援に努める。	2-③ 3-② 4-④	B		
		イ	個々の学習目標を明確にし、指導内容や支援方法について十分に話し合いを行い、よりよい授業の構築に努めていく。また、個々の実態に応じたICTの適切な活用を通して、学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-①②③	B		
	(3)	一人一人がお互いの良さを認め合い、思いやれる豊かな心の育成に努める。	ア	あいさつや返事などの社会生活の基本的ルールやマナーを意識させるとともに、学級活動等で自主的・対話的な活動場面を設定し、友だちや周りにいる人との関係を深めていけるようにする。	2-③ 3-③		B
			イ	遠足、修学旅行、校外学習、交流及び共同学習などにおいて人とのかかわりを深めるとともに、経験を深め広げられるような学習内容・活動の充実を図る。	3-①④		B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
高等部	(1)	健康や安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	教室、グループ室、廊下、教材室等の学習や生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、教材教具の点検・消毒を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②	C	<p>○毎日放課後各教室などの清掃に取り組むことができた。</p> <p>○教材を使用するときには、手の消毒と使用後には教材を消毒するなど、感染症対策を図ることができた。</p> <p>○生徒の発熱があった時には、養教・部主事・保護者と連絡を取り対応することができた。</p> <p>○学年外とのかかわりはなかったが、担外の先生が入ってくれた時には共通理解が図れていた。</p> <p>●教室や教材保管スペースについては、定期的に整理整頓が必要である。</p> <p>◇高プレに教材が広がってしまい、進路コーナーの妨げになってしまうことがあった。日頃から整理整頓を心がけていく。</p>
			一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、適宜生徒の健康状態を把握し、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。	1-①②③	B	
	(2)	生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、教育課程の改善を図りながら適切な指導内容及び方法の確立に努める。	個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別の教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。また、進路体験実習の事前相談や移行支援相談での活用を図る。	2-③ 4-④	B	<p>○保護者と話し合いながら個別の指導計画の作成にあたる事ができた。</p> <p>○学年会を通じ、生徒一人一人のニーズや課題について共通理解を図ることができた。</p> <p>○実習の事前相談が感染症対策の関係で電話での対応となり面談ができなかったが、個別の教育支援計画を基に必要事項を伝えることができた。</p> <p>○保護者と相談して実習先を決めることができた。</p> <p>○電子黒板の研修を行い指導力向上に努めた。</p> <p>○長期休みを利用して校内研修に取り組み、ICTの指導力向上に努めることができた。</p> <p>●視線入力などICTに詳しい教員による校内研修や学習指導など今後も継続的な研修が望ましい。</p> <p>●コロナ渦での進路体験実習の事前相談において、どのような形ですすめていことがよいのか検討する必要がある。</p>
			個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、学年会、学習グループ会等で課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、校内のエキスパートと連携し、適宜研修の機会を設け、ICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-①②③	B	
	(3)	自己肯定観を育むとともに、他者の良さを認め、思いやる等の豊かな心の育成を図る。	自己選択・自己決定の力を高める指導を重視し、学習場面及び学校生活全体を通して、様々な場の設定をするとともに、主体的に活動する時間を設定していく。また、図書室を利用する機会を適宜設定し、図書の貸し出しや読み聞かせなどを通して、本に親しむ態度の育成を図る。	3-③④	C	<p>○各学習グループで図書室利用を意識的に行うことができた。</p> <p>○個の興味関心に応じて、図書室を利用し読み聞かせを行うことができた。また、調べ学習などで活用することができた。</p> <p>○I期の実習で水戸特支との交流ができたことは、視野を広げるよい機会となった。</p> <p>○下妻二高との交流は同世代のかかわりを経験できる良い機会となった。今後も同世代との交流の機会を設けていきたい。</p> <p>・コロナ対策のため、かかわれるメンバーが限定的になってしまったが、その中で必要に応じてmeetで教室をつなぎ学習や交流活動に取り組むことができた。</p> <p>●図書室を利用する機会を設定することができなかった。</p> <p>◇年間計画の中で図書室を利用する学習を取り入れていく。</p>
			様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。また、状況に応じてICTの適切な活用を図る。	3-①②③ ④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
訪問教育	(1)	健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	表情や呼吸状態、酸素飽和度等を確認・観察し、訪問時の体調を的確に把握する。必要に応じて毎日の健康観察の様子を記録しておく。	1-①② 2-①②③ 4-④	B	○授業開始前に体調の観察を行い記録したり、必要に応じて睡眠リズムや排便、服薬、施設利用時の様子などの情報を保護者から聞き取り、体調把握を行った。 ●毎日の記録をもとに、長期的な視点で身体状態の把握を行うとともに、必要に応じて主治医の意見を伺い、三者共通理解のもと、授業を実施していくことが課題である。
		その日の体調に応じて授業内容を組み立てる等臨機応変に対応する。	1-①② 2-①② 4-④	B	○覚醒状態や体調に応じて、授業内容や授業の順番を変えたり、授業時間を短くしたりするなど、児童生徒のその時々体調に応じて臨機応変に対応した。 ●今後も、児童生徒の身体状態や認知レベルに合わせた授業を展開していくことが課題である。	
	(2)	児童生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	他校と情報交換をしたり、研修会に参加したりすることで、指導内容や教材教具、授業の組み立て方法等について研修し、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。	2-①② 3-③	C	○他校との情報交換は難しかったが、オンラインによる研修会に参加し、それぞれの学校の取り組みについて研修した。また、担当者間で授業の様子を視聴し児童生徒の実態・情報を共有し、授業改善に努めることができた。 ●今後よりお互いの授業を見合う機会をもつことで、授業について相談したり意見交換をしたりして授業改善に努めるとともに訪問生についての情報を共有する必要がある。
		保護者との連携を図りながら個々の教育的ニーズを把握し、指導を実践する。また、必要に応じてICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-①② 3-③	B	○その都度、保護者と指導内容や教材などについて確認し、共通理解のもと授業を実践した。また、保護者の協力のもと、オンライン学習や動画配信による授業など、ICTを活用した授業実践を行うことができた。 ●今後、個々の実態に応じたアプリの活用などICT機器を駆使した授業実践が課題である。	
	(3)	訪問生同士や所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。	学部会等で訪問教育生の実態や近況報告・連絡・相談をし、理解を深める。	1-①② 2-①	B	○学部会で訪問児童生徒の実態について紹介をすることで、理解を図った。また、通学生で取り組んでいる授業の中で可能な活動を取り上げ、同じ作品を制作したり音楽や体育の授業内容を行うことで、学年への所属感をもつことができた。 ●今後も、学部会などを通して訪問生の実態について共通理解を図るとともに、通学生徒の交流の機会を計画していくことが課題である。
		スクーリングの参加や交流については、事前に交流相手と密に連携を図りながら、お互いがかわりをもてるような内容にするために十分な打ち合わせを行う。また、状況に応じてICTの適切な活用を図る。	1-①② 2-②③ 3-①	B	○スクーリング参加の際は所属学年やグループと活動内容についての打ち合わせを行い、参加当日は友だちや教師と楽しくかわりながら無理なく活動することができた。また、行事に参加した訪問生同士の交流も実施することができた。さらに、オンラインで通学生と朝の会や行事に参加し交流することができた。 ●今後、オンラインによる交流をさらに進めるとともに、集団スクーリングで訪問生同士の交流の機会の持ち方を検討することが課題である。(対面のみならずオンラインも視野に入れて)	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
1年	(1)	児童の十分な実態把握のもと、健康や安全に配慮した生活環境の整備に努め、児童の健康や体力の維持・向上に努める。	登校時に検温等の健康観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	1-①	A	○児童の実態に応じて、PT、OT、ST相談を行い、いただいたアドバイスをもとに自立活動等の指導を行った。また、体調面で不安がある児童に対しては、主治医との医療相談を行い、生活の中での注意点や緊急時の対応についてご意見をいただき、学年で共通理解を図った。 ◇コロナ感染症の対応について、保護者に文書や口頭で伝えてきたが、体調不良時の対応について、風邪症状でも登校させるなど、保護者にしっかり伝わらなかったことがあったので、今後も繰り返し伝えていく必要がある。
		保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-①②	B		
		児童が健康・安全に過ごせるように、室温や湿度、安全面に配慮するなどの教室環境を整え、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②③	B		
	(2)	児童一人一人の興味関心や教育的ニーズを把握し、保護者や各種関係機関と連携を図りながら、個に応じた指導の充実に努める。	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを積極的に活用し教育活動に取り組む。	2-①②③	B	○教材教具の作製・工夫・活用については、職員間で共通理解を図り、協力して行うことができた。また、ICTの活用についても、児童の実態に合わせてリモート中の動画作成を行ったり、朝の会や授業等で児童が活用できるアプリを使用して教材を作ることができた。 ●1学期に児童の実態の把握のために、MEPAⅡと発達到達度検査を行ったが、それぞれの職員が個別に行ったため、全員でその内容について共通理解をする場面を設定したり、授業に活かすことができなかった。今後は、時期を決めて話し合いの機会をもつことが必要である。
			学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-①	B	
	(3)	一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とかかわりに慣れるよう、異学年での学習場面を設定する。	3-③④	B	○感染症等の対応として、異学年交流は今年度は1回のみ設定であったが、場所や内容を工夫して実施することができた。 ●人への興味が出てきた児童がいるので、ルールやマナーについては児童の実態に応じて、継続的に段階を踏んで支援していく必要がある。
			人とかかわりの基礎を養い、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	3-③④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善
2年	(1) 学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。	ア 登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や排せつや睡眠等の生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	1-②	B	○登校時の健康観察や、連絡帳、保護者から直接体調について確認し、学年で情報を共有し、共通理解のもと支援にあたることができた。 ○必要な情報については、保護者を通じて医療機関に確認しながら対応することができた。 ●室温・湿度の教室環境を整えるよう努めたが、湿度については、加湿器を使用してもエアコンを使用すると、30%以上にはならず、加湿方法について検討が必要である。
		イ 保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者や医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-①②	B	
		ウ 児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②③	C	
	(2) 児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	ア 個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを有効に活用(PCやタブレット端末等)した教育活動を図る。	2-①②③	B	○ICTを有効に活用し、PDCAサイクルを心がけて授業実践を行った。 ○学習の経過や結果については、学習の記録を欠かさずに行うようにしたり、授業のT2以下をローテーションしたりすることで、授業に入り、実態や学習の経過を知ることができるようにした。 ●電子黒板へのミラーリングが不安定で、授業中にICTの係の先生に対応していただくことが多々あった。
		イ 各グループ・学年の学習の経過や結果を学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	2-②④	B	
	(3) 友だちや教師等、人とのかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、コミュニケーションの基礎を養う。	ア 朝の会やレクリエーション等で身近な人を意識できるように、友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムやグループ学習等、異学年・異グループでの交流場面を設定する。	3-③④	B	○学年の特別活動でゲームやレクリエーションを行う中で友達とのかかわりの場面を設定した。友達を意識したり、協力しながらゲームに参加する姿が見られた。異学年交流では、くじでグループ分けをし、普段接する機会が少ない先輩とふれあい、一緒に活動することで楽しく活動することができた。 ○授業の中で気持ちの表出をしながら、ルールやマナーについても意識できるような内容や教材の提示、支援を心がけた。活動の中で自然な気持ちの表出が見られたり、教師の話を聞いてルールやマナーを守りながら活動に参加することができるようになってきた。 ●交流に関しては、今後も引き続き、感染症対策をとりながら続けて行けると良い。
イ 気持ちや要求を自ら表現したり、伝えたりできるよう、教材教具や支援の方法の工夫をする。また、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。		3-③④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善		
3年	(1)	健康で安全な学校生活を送ることができるように、保護者や関係機関との連携を図る。	登校時に連絡帳や保護者からの聞き取り、児童の様子等から体調を確認する。体調や生活上の変化については複数の教員で健康観察を行い、保護者との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。	1-①②③	A	○家庭での様子についての情報は、学年職員間ですぐに共有することができた。 ○体温や服薬、発作等の記録をとることで、体調を把握することができ、連絡ノートの活用や通院時に主治医に相談していただいたことで、安心して学校生活を送ることができた。今後も定期的実施していけるとよい。 ○教室の位置的に日差しが入らず、暖房をつけても寒く室温の調整が難しかった。	
			保護者や医療・福祉等の関係機関と連絡ノートを通して情報交換を行ったり、外部専門家からアドバイスをいただいたりすることで指導内容、支援方法の充実を図る。	1-①③ 4-④	B		
			安全面に配慮した教室環境を整え、定期的に教材教具の点検や教室の室温、湿度の調整を行い生活環境の整備に努める。	1-①②③	B		
	(2)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画、指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた指導・支援を実践する。個に応じたICT機器の活用や教材教具の工夫を行う。	1-① 2-①②③	B	○児童の実態や興味関心に応じて、タブレット端末のアプリやスイッチ教材を活用した支援ができた。 ◇ICT機器については、他学年の活用事例を積極的に情報収集をしながら有効に活用できるようにしたい。 ○学習の記録確認や授業後の情報交換を行うことで、教材準備や支援方法について検討し、共通した支援を行うことができた。 ○面談時に活動の写真とともに評価の説明をしたことで、保護者もイメージがしやすくより伝わりやすかった。	
				学年会で児童の学習の経過や成果について情報交換を行い、支援方法の検討や共通理解を図り学年全体で支援できるようにする。	1-①②③		B
				個別面談時には、保護者に学校の様子を写真や動画を提示しながら説明することで、個別の教育支援計画、指導計画について話し合い共通理解を図る。	2-①②③		B
	(3)	人とのかかわりを大切にしながら、一人一人の実態に応じたコミュニケーションの基礎を養う。	あいさつや呼名、学級活動等で身近な人を意識できるように、友達や教師とかかわる場面を設定する。また、なかよしタイムやグループ学習等、学年以外の人と交流する学習場面も設定する。	1-① 3-①②③ ④	B	○学年の児童同士のかかわりは、学習課程が違うことから授業時間や活動時間が合わず、かかわりの時間は限定的になってしまったが、短い時間のかかわりでも、朝や帰りの挨拶などは、なるべくできるように心掛けた。 ○学校間交流(上妻小学校)を、オンラインで4回実施することができた。I課程は、教科学習や3校合同交流会(水戸・つくば特支)もオンラインで実施することができた。 ●体育以外の授業は学年で実施のため、他学年との交流の機会が少なかった。コロナ感染症の状況にもよるが、少人数の学年のため、他学年とかかわれる機会を設定できるとよい。 ○オンライン学習やスイッチの活用、言葉を引き出すためのやり取りを繰り返す行うことで、コミュニケーションの基礎を養うことができた。	
				具体物、写真カード、スイッチ・タブレット等のICT機器を活用して、コミュニケーションを図ったり、自己選択したりできるようにする。	1-① 2-②③		B
				集団活動におけるルールやマナーを身につけることができるように支援する。	2-③ 3-③		B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
4年	(1)	ア	保護者との連携を密にし、連絡帳や登校時の聞き取りや検温、パルス計測、表情の観察等で児童の体調を十分に把握する。	1-②③	B	○連絡帳や登校時の保護者からの聞き取りを十分に行い、記録表を用いたり、教員間で情報を共有することで体調の把握ができた。 ●緊急時の対応マニュアルについて年度初めだけでなく、定期的に学年会等で確認していく必要がある。 ○学部専門家相談や連絡ノートで得た情報について速やかに学年で共有し、普段の生活に生かすように努めた。 ◇教室備品等で児童の安全が妨げられないように、配置に注意を配ってきた。ベッドや歩行器と大きなものが多くあり、常に児童の動き等を考えながら整理していく必要がある。
		イ	保護者や医療・福祉等の関係機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-②③ 2-① 4-④	B	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の調整をしたり、整理整頓を心がけたりして、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①③	C	
	(2)	ア	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行い、児童の実態や教育的ニーズに応じた指導の実践を行う。	1-① 2-③	B	○課程の違う児童の実態を把握するために教員を入れ替えたり、学年会やグループ会で支援の共通理解を図った。 ●出席日数の少ない児童の実態を正確に把握するために登校時の様子の情報交換の仕方や保護者からの聞き取り等の共通理解の方法を検討していく必要がある。
		イ	学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果、変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、個々の学習評価を行い、目標達成や課題解決に向けた支援指導を実践する。	2-①②③	B	
	(3)	集団生活の中での人とかかわりを大切にし、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	ア	友だちや教師を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるよう、あいさつや呼名、ふれあい遊び等の、人とかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムで他学年の教師や友だちとかかわりを持ち、交流の充実を図る。	1-① 3-① 4-②	C
イ			友だちや教師とかかわりながら、感じたことを表出できるよう教材・教具の工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。	2-② 3-①	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
5年	(1)	ア	健康で安全に過ごせるよう、登校時に保護者からの聞き取りや連絡帳で児童の体調を確認する。検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。	1-①③ 2-①	A	○連絡帳や保護者からの聞き取り、電話連絡等で保護者と連携を図りながら、児童体調や状態に配慮しながら支援を行うことができた。 ◇引き続き、体調に不安があったり、身体に傷等があった場合には、主事、保健主事、管理職等に報告し、保護者と連携をとりながら、安全に過ごせるようにしていく。 ◇必要に応じて、専門家相談や連絡ノートや医療相談等で主治医・担当PT等へ相談する。 ◇換気や加湿をしながら室温や湿度調整を行っていく。 ◇棚等がないため、教材等が乱雑になってしまいがちなので、整理整頓を心がける。
		イ	連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや座薬の挿入等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して円滑に行えるよう進めていく。	1-①②③ 2-①② 4-③	A	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	1-① 2-①②	B	
	(2)	ア	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材・教具の工夫、ICTの活用、学習環境の整備を行う。また、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。	1-①② 2-②	B	○ipad、大型テレビ、電子黒板が配置され、ICTをたくさん活用することができた。 ◇引き続き研修をしながら活用していく。 ○学年会や朝の打ち合わせ時に、児童の報告等を行うことで、連絡事項や学習支援の共通理解をすることができた。
		イ	学年会やグループ会、合同授業の話し合いで児童の学習の経過や変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、学習の記録を行い、支援の改善に生かしたり、共通理解に活用したりする。	1-①②③ ④ 2-①②③	A	
	(3)	ア	場や相手に応じて話したり、自分の気持ちを表現したり伝えたりすることができるよう、個に応じて指導場面を設ける。また、興味・関心のある教材・教具を使用し、自己選択したり、やりとりをしたりする場面を設定する。	2-② 3-①②③ ④	B	○自立活動や日常生活、また道徳等の授業で、気持ちを表現する学習や人とのやりとりの方法について学習する授業を行った。 ◇I課程の児童には、来年度委員会や児童生徒会等の活躍する場面を設けるなど、引き続き学習場面を設定していく。 ○他学年、他グループとの学習は、感染症対策で、オンラインを活用したり、体育館等の広い場所で設定することができた。感染状況を見ながら、引き続き行っていく。
		イ	他学年や他グループとの授業やなかよしタイム、学部の行事等では、必要に応じてICTを活用し、他学年の友だちや教師とのかかわりの場面を設定する。	2-②③ 3-①②③	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
6年	(1)	保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し学校生活を送ることができるようにする。	ア 体調や生活上の変化について保護者との連携を密にし、児童の身体や健康の様子を把握する。医療的ケアのマニュアルに沿ったケアの実施と記録をし健康状態の把握をする。	1-①③ 2-①②	B	○毎日の健康観察や保護者からの聞き取りなどから体調面の把握をすることができた。また、医療的ケアのマニュアルに沿ったケアの実施と記録の継続を行うことができた。 ○毎日の清掃や備品、教材の整理をし、安全を意識した教室環境作りができた。 ◇保護者から聞き取りしたことや、健康面で共通理解が必要な内容については、朝のうちに学年で周知できるようにしていく。
		イ 児童が健康で安全に過ごせるように教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、事故防止に努める。	1-①②③ 2-①	C		
	(2)	児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や系統的な指導に努める。	ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫を行い、系統的な支援を行う。また、環境の整備も行う。(ICTの有効的な活用を行う。)	1-① 2-②③	C	○学年会やグループ会で、児童の様子や活動での様子などの共通理解を行い、どのような支援や教材が有効であるかを話し合いながら取り組めた。ICTの活用も有効的に取り入れて実施することができた。 ○リハビリの様子など動画で保護者の方から提供してもらったり、面談では教材を示したりと、より具体的に共通理解を図ることもできた。 ●個に応じた教材の工夫とICTの有効的な活用をしていく。また、系統的に学習に取り組んでいく。
			イ 学習の経過や変化について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り教員全員で支援できるようにする。また、学習の記録を行い、共通理解に活用する。	1-① 2-①②③	B	
			ウ 個別面談時には、保護者に学校での様子を教材の提示したり、動画などで説明することで、個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-① 2-②③	B	
	(3)	集団活動の中での人とのかかわりを大切にし、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション力の基礎を培う。また、豊かな心を育む。	ア 自分の気持ちを伝えることができるよう、個に応じた丁寧なかかわりを行う。ツールとして、ICTや写真カード、絵カード、具体物等を活用してのやりとりを充実させる。	2-③	B	○児童一人一人の実態を踏まえた、言葉かけややりとり、ツールを活用して、コミュニケーションを図ることができた。 ○毎月図書室を利用する時間を学年で設定し、本に触れる時間を設けたり、読み聞かせを行った。また、読書週間での取り組みにも参加した。 ○四季を通して、校庭の散歩をしたり、野菜を育てたりして、四季を感じとることができた。 ◇児童との会話を丁寧にいき児童からの反応をまったり、時には共感しながら、コミュニケーションを充実させる。
			イ 場面に応じたあいさつをしっかりと伝える。図書室の活用を充実させ、絵本にたくさん触れる。また、植物を育てたり、校庭の散歩などで季節を感じられる活動を取り入れる。	3-④⑤	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
I	(1)	健康で安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身辺自立を図る。	ア 体育や自立活動等を通して、健康の維持・増進に努める。	2-③	B	○体育、自立活動の時間は、車いすの自操、体操、ボール投げ、ストレッチなど、積極的に身体を動かす活動を行うことができた。 ◇運動の時間が少ないので、今後も、教室移動時の車いすの自操、階段昇降など意識的に実施していく。
		イ 体育や自立活動等において、体力の向上や身辺自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める場面を設ける。	1-① 2-③	B		
	(2)	児童一人一人の実態に即した授業内容・展開・環境を工夫したり、教材・教具を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	ア 児童の実態を的確に把握し、体験的な活動を取り入れた学習の機会を多く設ける。また、他者とのかかわり方を学べるように、学習環境を工夫し、異グループ合同で学習する時間を設定する。	2-①②③ 3-①③	C	○オンラインでの学習場面を多く設定した。休校期間のオンライン授業、社会科見学、学校間交流、ALTの授業など、ICT機器を活用して他者とのかかわりを学ぶ機会を多く設けることができた。 ○社会科ではオンライン工場見学、算数科ではメジャーやはかりなどを使用して実際に測定するなど、体験的活動を多く設定したことで、理解度が向上した。 ●限られた時数内での学習内容、活動を精選しつつ、異グループ合同で学習する機会もさらに設定していけると良い。 ●習熟度はおおよそ把握できていたが、既習内容の復習が不十分な教科もあった。必要な学習を自ら考えて実行する力を育てていけると良い。
			イ 基礎基本の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。	2-②③ 3-⑤	B	
			ウ 授業記録を適宜付け、定期的に学習の習熟度を確認し、既習内容の復習を行う。	2-③	B	
	II	(1)	ア 児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	2-①②③	C	○各学年の児童の実態を十分に把握し、それに合わせた学習がそれぞれ展開されている。 ○全学年の学習内容に含まれていない『買い物学習』は、買い物の流れを理解してできるだけ自力で目標の品物を購入することを目標にした。よって単発で校外に出かけての実施はせずに校内に設置した模擬店を各学年で何度も利用しながら体験学習できたのは良かった。 ●II課程として6年間の系統性をもたせた学習内容について検討したり情報交換したりする流れがまだできていない。
イ 自立活動や他の教科と関連付けたり、定期的にグループ会をもち教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。			2-①②③	C		
(2)		ア 学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とのあいさつを交わす場を大切にするとともに、学習場面や合同生活単元学習等においても、多くの人とかかわることができるように、異学年との交流を定期的に設定する。	2-①②③	B	○合同生単においては、人とかかわるうえで必要な力(相手の気持ちを考える、相手に伝える)の育成を目標にオンラインでの授業を実施した。コロナの状況で直接交流が難しい時期であったにもかかわらず、日常の場面で異学年の児童同士で挨拶をかわしあう場面が多く見られるようになった。 ○児童が自らClass roomアプリを使って授業に参加する体験ができたのは、今後の新しい授業スタイルに向けて慣れておくという意味で良い経験になった。 ●引き続き基本的な生活習慣(あいさつや返事、人とかかわり方等)の確立を目指すことは必要である。	
		イ 児童の実態に応じて、サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていく。	2-①②③	B		

各教科の指導

Ⅲ	(1)	体験的な活動を通して、興味関心の幅を広げるとともに、人のかかわりを大切にしながら、気持ちを表現する力を伸ばすなど、個に応じた支援の充実を図る。	ア	様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫する。	1-① 2-② 2-③	B	B ○フォーマルなアセスメントを実施するなどして実態把握を行った。 ○実態に合わせ教材を用意し提示の仕方を工夫しながら、五感に働きかける活動を意識した授業づくり、体験的な活動を取り入れた授業づくりを行い、興味関心の幅を広げることができた。 ◇アセスメントについて、結果を学習の目標に活かしていったり、系統性を各学年で確認し共通理解したうえで進めていったりする必要がある。 ◇より一層、児童の主体的な活動を促すためにも、ICTの活用を今後も計画的に取り入れていく必要がある。 ○気持ちの表出がある活動内容を取り入れ、気持ちの表出があった際には代弁した。 ○感染症対策をしながらなかよしタイムを実施した。他学年と手紙のやり取りを行うことができた。 ◇次年度は、同じような単元の中で他学年と交流するなど、感染症対策に配慮し他学年との交流を行う必要がある。
			イ	気持ちを表した際には、共感するような言葉をかける。また、必要に応じて他学年との交流や合同授業を設定する。	2-② 2-③	B	
	(2)	家庭や医療機関等と連携を深め、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	ア	こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。	1-①② ③④	B	B ○看護職員による医ケア対象児の医療相談と必要に応じて医療相談を担当が行うことができた。また、通院後に保護者から医療情報を聞いたりして連携を図ることに努めた。 ○連絡帳や保護者からの体調に関する情報を学年間で毎日共有した。 ○記録や言葉かけ等で学年内での情報共有はこまめに行うことができた。 ●年間を通して行う縦割りの他学年との学習では、支援の仕方等、情報交換の場を設けていく必要がある。 ○必要な情報を保護者や医療機関に電話や連絡ノート等で確認しながら取り組むことができた。 ◇連絡ノートについて、あまり活用できていなかったと思う。次年度も必要に応じて活用して行くか別の方法を考える必要がある。
			イ	連絡帳や連絡ノートを通して家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	1-① 2-①	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
1年	(1)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密にし、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	1-①②③ 2-①②③	A	○連絡帳や面談等を通して体調や生活上の留意点について保護者と共通理解を図ることができた。 ○発作の記録用紙を生徒の傍に置くことで、誰でもすぐに記入することができ、発作の様子を把握することができた。 ○外部専門家相談を積極的に行い、PTやOTから指導内容や支援方法についてアドバイスをいただき、生徒への指導に生かすことができた。 ●新型コロナウイルス感染症のためリハビリ通院が減り、連絡ノートを使用しての情報交換は難しかった。
			外部専門家や連絡ノートの活用を通して、保護者や関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容や支援方法の充実を図る。	1-①②③ 2-①②③ 4-③④	B	
	(2)	生徒一人ひとりの障害特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。	複数の教員による情報収集や多面的な実態把握に努め、個に応じた教材・教具の工夫、学習環境の整備を行う。	1-①②③ 2-①②③	B	○学年会やグループ会などで生徒の様子を伝え合い、支援方法について共通理解を図ることができた。また、生徒一人ひとりの実態に応じた支援方法を検討することができた。 ○タブレット端末を活用し、授業の様子を写真や動画にとって、学習のふりかえりに活用することができた。 ◇装具の付け方や生徒一人ひとりへの配慮事項など他学年の教師にもわかるようなマニュアルの工夫や引継ぎ方法を検討できるとよい。 ◇記録の取り方を工夫し、授業改善に活用できるようにしたい。
			学習の経過や生徒の変容について、記録を基に学年会や学習グループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り、生徒にかかわる教員全員で支援できるようにする。	1-①②③ 2-①②③	B	
			日々の授業内容や記録の取り方を工夫し、授業実践の工夫、改善に努める。学習活動を期待できるような手がかりとし、絵カードやタブレット端末などを意図的に活用する。	1-① 2-①②③	B	
	(3)	集団活動の中で人とのかかわりを大切にし、コミュニケーション能力を高めることができるようにする。	教育活動全般を通して生徒同士がかかわる場面を多く設定し、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。	3-①②③ ④	B	○帰りの会で1日のふりかえりを一人ずつ発表するようにしたことで、グループの違う友だちや教師に知らせ、称賛し合うことができた。 ○特別活動では、ポッチャ大会の練習をしたり、視線入力ゲームやボウリングをしたりして、生徒同士がかかわる場面を設けることができた。 ○生徒が伝えようとしていることを表情や発声、身体の動きなどから教師がよみとり代弁することで、友だちや教師とスムーズにかかわることができた。 ◇ICT機器を活用する機会を増やし、生徒が主体的に活動したり、気持ちを伝え合ったりする場面が増やせるとよい。
			具体物や写真、絵カード、スイッチ教材、タブレット端末などのICT機器を活用して、生徒が自己選択したり、主体的に活動したりできるようにする。また、生徒の表情や発声、視線、身体の動きなどで意思表出した際に教師が相手に伝えることで、スムーズにコミュニケーションをとることができるように支援する。	2-①②③ 3-①②③ ④	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善		
2年	(1)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整え、情緒の安定を図るとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、日々の連絡帳や会話でのやりとりを通して保護者と密に連携し、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持に努める。	1-①②③ 2-①	C	○生徒の健康状態を把握し、養護教諭や看護職員等と連携しながら一人一人の生徒が健康的に学校生活を送ることができるよう努めた。 ◇生徒の対応について、保護者と連携不足の点があったため、保護者への連絡・相談をこまめに行い、より連携を密にしていく必要がある。 ○外部専門家相談の機会を積極的に活用し、生徒の障害の特性や実態の把握に努め、指導・支援に生かすことができた。 ○教室や廊下の清掃や消毒を毎日しっかりと行い、環境の整備に努めることができた。 ◇教室に教材などが多く置いてある状況があったので、整理整頓をより意識して行く必要がある。	
			連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関と連携しながら一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点や、健康の維持、情緒の安定といった自立活動の課題について教職員間で共通理解を図る。	1-①②③ 2-①②③ 4-④	B		
			教室や学習室などの学習環境の整理・整頓を心がけ、生徒が活動しやすい環境をつくるとともに、事故の未然防止に努める。また、定期的な安全点検を行い、安全で安心な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②③ ④	B		
	(2)	生徒一人一人の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握し、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫することで、よりよい授業への改善に努める。	個別面談や日々の連絡帳でのやり取りから、生徒や保護者の教育的ニーズを把握し、個々の実態に応じた自立と社会参加に向け、保護者と連携して個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に努める。	1-①②③ 2-②③ 3-①②③	C	◇個別面談や連絡帳だけでなく、保護者の方とお会いしたときにコミュニケーションを測り、信頼関係を気づいていくことが共通理解の一步だと感じるがあった。今後も実態を正しく把握できるように研修し、それぞれが担当としての責任を果たせるようにしていく。 ○学年会やグループ会を通して、生徒の実態等について共通理解をすることができた。 ◇各授業でチームティーチングを行う教員全員で、授業の内容について話し合う場が短時間でもとれるとよい。 ○スイッチ教材やiPadのアプリなど、生徒の実態に応じてICT機器を活用し、授業や学校生活の支援に生かすことができた。	
				学年会やグループ会等で生徒の実態や支援内容等についての共通理解を図るとともに、授業略案を作成して個々の学習目標を明確にし、よりよい授業の構築に努める。	1-①②③ 2-②③ 3-②③		B
				一人一人の実態に応じた教材の工夫や適切なICTの活用を通して、一人一人が学習活動に主体的に参加できるよう努めるとともに、日々の授業実践の工夫・改善と指導力の向上を図る。	1-①②③ 2-①②③ 3-②③⑤		B
	(3)	一人一人がお互いの良さを認め合い、相手を思いやる心を育むとともに、社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	あいさつや返事などの社会生活の基本的なルールやマナーを意識させるとともに、教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき、思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	1-① 2-④ 3-①②③ ④	B	○挨拶や返事を意識して、朝の会や休み時間の活動に取り組むことができた。 ○学年レクでは、ポッチャを通して互いに応援し合ったり、それぞれの生徒の出し物をあたたかい雰囲気で見合ったりと、お互いを認め合う場を設定することができた。 ○遠足では茨城フラワーパークに行き、バラの花をたくさん見るなど自然に触れ、生徒同士の関わりを深めることができた。 ◇進路に関する情報を発信する場を設けたが、多く保護者の方に参加してもらえよう働きかけを行う必要がある。	
				遠足、校外学習、交流及び共同学習など、多様な経験ができる学習内容・活動の充実を図るとともに、進路や福祉関係の情報を教員間で共有し、保護者への情報提供に努める。	1-①② 2-④ 3-①②③ ④⑤ 4-①②④		C

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
3年	(1)	ア 生徒の健康状態を把握し、健康で安全・安心な学校生活を送れるよう環境を整える。情緒の安定を図るとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、日々の連絡帳や直接的な会話を通して保護者と連携し、必要に応じて養護教諭や看護職員と連携を図りながら健康の維持に努める。	1-①②③	B	○日々の連絡帳や健康観察カードを通して生徒の体調を把握し、不調がみられた際には養護教諭、看護職員等と随時連携しながら確認することができた。 ○生徒の身体機能の変化や日常生活における動作の向上について、外部専門家と相談し、現況を把握しながら環境調整を行うことができた。 ○毎日昼食後、放課後の清掃、消毒等に取り組むことができた。 ○共通理解が必要な生徒について、緊急対応訓練を行いマニュアルの確認、見直しを行うことができた。 ◇姿勢の変化等が顕著な生徒については、さらに短いスパンでの外部専門家及び保護者等との連携が必要である。
		イ 外部専門家や連絡ノートを活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握する。個々の目標や指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①②③ 2-①③ 4-④	C		
		ウ 教室や学習室などの学習環境の整理・整頓、安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい環境をつくる。必要に応じて緊急対応マニュアルの確認、修正を速やかに行う。	1-①②③ ④	A		
	(2)	ア 生徒一人一人の実態や障害特性、教育的ニーズを的確に把握し、個々の目標を達成するための指導・支援内容を工夫するとともに、よりよい授業改善に努める。	個別面談や日々の連絡帳でのやり取りから、生徒や保護者の教育的ニーズを把握し、個々の実態に応じた自立と社会参加に向けて、保護者と連携して個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に努める。	1-① 2-①③ 3-①②③	B	○個別面談では、進路を踏まえた個々のニーズを確認しながら、保護者と指導計画について相談し、個別の指導計画を作成することができた。 ○個別の指導計画をもとに、学年、グループ内で課題を共有し学習目標を明確にして、授業実践を行うことができた。 ○オンライン授業の期間をはじめ、随時、必要に応じてタブレット端末等を活用した授業を展開した。 ◇さらにICT等の活用が効果的に行えるよう、電子黒板、タブレット端末、視線入力装置などの研修を行っていく必要がある。
		イ 学年会やグループ会等で生徒の実態や支援内容等についての共通理解を図り、個々の学習目標を明確にし、授業略案を作成して、よりよい授業改善に努める。	1-① 2-③ 3-④	A		
		ウ 一人一人が学習活動に主体的に参加できるように、ICT等の活用を通して、一人一人の実態に応じた教材の工夫や日々の授業実践の工夫・改善と指導力の向上を図る。	1-① 2-①②③ 3-③	B		
	(3)	一人一人がお互いの良さを認め合い、相手を思いやる心を育むとともに、社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して、あいさつや返事、社会生活の基本的なルールやマナーを意識できるように促す。また生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき、思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	1-① 3-③④⑤	B	○学級活動の場面では、テーマごとに生徒同士の活発な話し合い活動ができた。 ○「道徳」の授業においては、他の支援学校の生徒とのオンラインでの合同授業を行うことで、同年代の生徒同士での活発な意見交換や主体的な交流を行うことができた。 ○必要に応じて進路に関する関係機関と連携することができた ◇今後も生徒の主体的な関わりが深められるように、他校との合同授業などの機会を設定していけるとよい。 ◇挨拶や言葉遣いなど、常時意識できるように今後も継続した支援が必要である。
			イ 修学旅行、交流及び共同学習など、多様な経験ができる学習内容・活動の充実を図る。進路や福祉関係の情報を収集し、教員間で共有し、保護者への情報提供に努める。	1-①② 3-①②③ ④ 4-④	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善
各教科の指導	(1)	各教科の学習において、基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。	ア	一人一人の生徒の実態や特性に応じて、各教科の担当教員が教材の工夫や学習環境の整備を行うとともに、生徒の実態や支援方法について教科担当者間で連携し、共通理解を図る。	1-①②③ 2-①②③ 3-②③⑤	C	○必要に応じて、各教科でICT機器を使用しながら授業を行うことができた。使用方法や効果を共有できるよう、学年会などで情報交換を行うようにする。 ○生徒の体調に応じて学習時の姿勢を変更したり、休憩時間を設定したりするなど、柔軟に対応することができた。 ●各教科担当同士で、授業の様子や到達度、支援方法など、より連携を深めていく必要がある。 ○臨時休校により、どの教科も時数が減ってしまったが、可能な限り確保できるよう、調整できた。また、各教科担当からの協力を得られた。
			イ	各教科の学習内容や定着度に応じて定期的に小テストなどを実施したり、達成段階に応じた課題を出したりして、反復学習の機会を設定し、学習内容の定着を図る。	2-①②③ 3-②	B	
			ウ	それぞれの障害の特性に応じた支援を行うための自立活動の時間を設定しつつ、十分に学習内容が定着できるよう、各教科の授業時数の確保に努める。	1-① 2-①②③	B	
	(2)	個々の実態に応じた自立と社会参加に向けて、適切な支援と進路指導を行う。	ア	授業や日常生活の中で、あいさつや返事などの社会生活の基本的なマナーやルールを意識させるとともに、周囲の人の力が必要な場合には自分から依頼するように促し、主体的に生活する態度を育む。	1-① 2-③ 3-①②③ ④	B	○あいさつや返事などについて、適宜指導、支援を行うことで、生徒の意識を高めることができた。また、待つ指導を行うことで、自分から依頼する場面や、自分で考える場面を設定できた。今後も継続していく必要がある。 ○道徳に関して、2学年合同で行うことで、生徒同士の意見交換やコミュニケーションの場を設定することができた。また、他校と合同での授業を行い、より活発で主体的な活動を行うことができた。 ●I課程在籍の生徒が少なくなったときに、話し合いや意見交換の場をどのように設定するか検討する必要がある。 ○「進路を考える週間」では、様々な活動を取り入れ、経験の場を増やすことができた。 ●I課程在籍の生徒が少なくなったときに、どのように進めていくか検討する必要がある。
			イ	道徳の時間に、I課程全員で話し合う時間を設け、自己を振り返ったり見つめたりする時間を設定することで自己理解を深めるとともに、考えや価値観を深められるようにする。	2-③ 3-①②③ ④⑤ 4-②	B	
			ウ	「進路を考える週間」で生徒の実態に応じた職業トレーニング体験を取り入れ、働くことについて考えられるようにする。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	1-① 2-③ 3-①③④ ⑤ 4-④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
各教科の指導	II	(1) 日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	ア 身振り手振りや指文字、手話、ICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことによって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	2-①②③ 3-①	B	○タブレット端末と大型ディスプレイを使って学習に活用することができた。 ○手話やタブレット端末を利用して、コミュニケーションの幅を広げることができた。 ○学習記録をエクセルで個々にデータ化したことで、スムーズにとることができた。 ●各教科の担当者が情報交換をする機会を設けられると、さらに横断的な学習ができる。
		イ 教科ごとに指導者をほぼ固定し、各教科の指導者同士で連携を図ったり、学習の記録を生かしたりして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	1-①②	C		
	(2) 自分の意見を発したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、主体的なコミュニケーション能力を身につける。	ア 生徒間で意見を交換したり自分の考えを発したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-①② 4-①	B	○授業ごとに振り返りや意見を発表できる場を多く設定することができた。また、朝の会の準備など友だち同士で声をかけ合いながら、友だちの意見を聞くこととする態度は育ってきた。 ○グループ会などで生徒の情報や学習内容、手だて等について教員間で意見交換することができた。	
		イ グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、健康管理や目標の共有を図り、個々に応じた手立てを検討する。	1-①② 3-①	B		
	III	(1) 生活のリズムを整えながら、健康の維持・増進を図る。	ア 検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や養護教諭、看護職員と情報を共有し、さらに学部会やグループ会等で連携を図りながら適切に対応する。	1-① 2-①	B	○生徒の様子を見ながら、検温を行ったり、パルスオキシメーターを活用したりして健康観察を行い、安全に教育活動を行うことができた。また、保護者や看護職員と情報を共有し、それをグループ会で共有することができた。 ○OPTやOTなどの外部専門家に個々の生徒の実態に応じた内容を相談し、相談した結果を自立活動や日常生活全般に生かすことができた。 ●学習内容の変更に関しては、必ず保護者と共通理解を図ってから実施していく必要がある。
			イ 外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において個々の実態に合わせた身体機能の維持・増進に努める。	1-① 2-① 4-④	B	
(2) 人とのかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。		ア 個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法、ICTの活用などの支援方法について共通理解を図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	1-②③ 2-① 2-②	C		
		イ 五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れるなど活動を工夫することで、興味・関心の幅を広げるとともに、快・不快等の自発的な表出を促すために、支援の方法や教材・教具の工夫をする。	1-②③ 2-①	B	○タブレット端末や大型モニターを活用して生徒が興味関心をもてるような授業を行うことができた。 ○学習活動の中に、見たり、聞いたり、触ったりなどの五感を刺激する活動を多く設けることで、生徒の興味関心の幅を広げたり、表出が増えるような工夫をすることができた。 ○生徒同士でお互いの学習している様子を見合えるようにしたり、教師が言葉かけをしながら学習内容に興味関心をもてるようにしたりすることができた。 ●学習内容によっては、中学部の発達年齢に合っていないと思われるものもあった。今後、指導計画を作成する際には留意していく必要がある。	
	ウ 他者とのかかわる場面の設定や学習内容、学習形態を工夫する。	1-② 2-①	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善
1年	(1) 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	ア 教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃、消毒を毎日行い、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②	B	A ○毎日放課後に清掃、消毒を行い、衛生的な環境整備に努めることができた。 ○早期に緊急想定訓練を実施したり、発作時の対応の振り返りを積み重ねてきたことにより緊急時の対応力の向上を図ることができた。新入生の緊急時のマニュアルを作成した。 ○朝の会の進行や授業内容、係の仕事など、学校生活全体で生徒が選択、自己決定する場面を多く設定し、生徒の力を生かせる教材教具の工夫をすることができた。 ◇感染症対策ができれば他学年の生徒との交流を図りたい。
		イ 保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、緊急時に備えたマニュアル作りと対応力の向上に努める。	1-①③④	A	
		ウ 他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	3-①②③④⑤	A	
	(2) 生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確にふまえ、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	ア 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別的教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	2-③	B	A ○生徒や保護者のニーズを確認しながら個別的教育支援計画を作成することができた。生徒の特性を踏まえ、個に応じた学習指導や課題の手だてを設定した。 ○朝の会や学習の挨拶、自立活動などでタブレット端末を活用することができた。目標達成カードで生徒個々の目標が明らかになったことで教員が共通理解し協力して取り組むことができた。 ●個別面談で得た情報交換が不十分なところがあった。
		イ 学習活動、自立活動の指導においては、実態に応じてICTの適切な活用を図りながら指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についても目標達成カードを用いて教員間で共通理解し、手立ての工夫・充実を図る。	2-②	A	
	(3) 生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	2-③ 4-④	A	A ○個別面談時に個々のニーズや進路の課題を確認し、進路体験実習を実施することができた。健康の保持や身辺自立など、個に応じた課題解決に向けた取り組みを行うことができた。 ○相談支援員との面談を実施したり新規の施設利用の情報を交換したりして実態にあった進路を進めることができた。
		イ 生徒の実態に応じて、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。	2-③ 4-④	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
2年	(1)	ア	保護者や関係機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。生徒の健康状態を把握するため、必要に応じてバイタルチェックをして健康管理の意識を高める。	1-①	B	○保護者と連携を図り、健康状態を把握したり必要に応じてバイタルチェックを行ったりすることで、健康・安全に留意し生活することができた。 ○外部専門家との相談を積極的に行い、体力の向上や身体機能の維持・向上に努めることができた。 ○毎日、放課後に使用教室等の清掃・消毒を行うことができた。 ○コロナ感染症対策により直接生徒同士がかかわることは難しかったが、教材を介してかかわることのできる活動を設定し、人とのかかわりを深めることができた。また、その際、教材教具の消毒を徹底することができた。 ◇教材を介した生徒同士のかかわりがもてる場面や自己選択、自己決定できる場면을継続して設定する。
		イ	生徒の視点に配慮し、教室、グループ室、廊下などの整理整頓及び教材教具の点検・消毒を行い、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	1-①	B	
		ウ	生徒同士でかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	1-① 3-①②③	C	
	(2)	ア	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図ると共に、進路体験実習において情報の共有に努める。	2-③ 4-④	C	○生徒・保護者と情報を共有しながら、個々の課題を明確にし、個別の教育支援計画の作成にあたることができた。学習においては、日々の授業の中で改善を図りながら、指導の工夫・充実に努めることができた。 ◇進路体験実習では、コロナ感染症の状況により電話での事前相談となったケースがあり、生徒の実態が共有されていない部分もあった。初めての施設で実習を行う場合は、オンラインでの事前相談ができるように配慮する。 ○実態に応じて、ICTを活用し自立活動の指導の充実を図ることができた。
		イ	学習活動、自立活動の指導においては、実態に応じた内容と指導方法を工夫し、授業の改善に努める。また、ICTによる学習活動の充実に努める。	2-②③	B	
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で達成できるよう具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	2-③ 4-④	C
イ			生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり、福祉施設等の情報提供を行ったりすることで、実態に合った進路想定に導けるように努める。	2-③ 4-④	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
3年	(1)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	生徒、保護者のニーズや意見を反映させながら、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導、手立ての充実を図る。日常の観察などを通して一人一人の実態を的確に把握して指導にあたる。	1-①	B	○個別面談や連絡帳を通じ、生徒や保護者のニーズを把握し個に応じた指導を行うことができた。 ●今後も教員間の共通理解が十分に行われることが望ましい。 ●保護者との情報交換、連携は密にできているが、医療福祉等の連携を十分に行うことが難しかった。
			保護者や関係機関と連携を図りながら、一人一人の障害特性や実態把握を行い、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などについて教員間で共通理解するとともに、より実態に即した指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。	1-①②③	B	
	(2)	将来の生活を踏まえ、自立や社会参加を図るために指導内容を検討し、進路指導に関する支援の充実を図る。	生徒、保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。また、将来の実生活をイメージした進路選択ができるように日頃から福祉施設等と情報の共有を図り、進路支援に活かしていく。	2-③ 4-④	B	●福祉施設等との情報共有は、実習の前後など限られた時間になってしまうこともあった。日頃から連携ができるような手段を整えることが課題である。 ●進路指導主事を窓口連携を取りながら、卒業後に向けた指導を充実させることができた。
			生徒一人一人の目標達成に向け、指導内容や支援について探求し、教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。	2-①②③	B	
	(3)	自己肯定感を育み、他者とのかわりを楽しむ豊かな心の育成を図る。	学校生活において、生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね、主体的に生きようとする意欲を持たせ、自己選択・自己決定できるような場面を設定する。	3-①②③ ④⑤	B	○感染症予防を行いながら、学年全体で行える活動を場所やオンライン等の工夫して実施することができた。 ●コロナ感染症の影響で他者との交流が間接交流となるが多かった。オンラインでの活動でも、生徒が主体的に活動できる工夫が今後の課題である。
			学級活動や交流、学校行事などを通して他者とかかわりをもてる機会を設定し、集団の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。	3-①②③ ④	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
各教科の指導	I	(1) 健康・安全に留意し、一人一人の主体的な活動を大切にしながら、充実した学校生活が送れるようにする。	ア 充実した学校生活を送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	1-①② 3-①②③ ④	B	●次年度以降も様々な場面で活躍できる場を設定する必要がある。
		(2) 一人一人の進路適性を的確に把握し、個別の進路課題に応じた進路指導に努める。	ア 生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する適切な情報提供を行う。また、生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように支援する。	2-①②③	C	○生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、自身の課題を意識しながら主体的に進路選択できるよう支援することができた。(次年度も継続していく) ◇次年度以降も教科担当者間の連携を図り、生徒の細かい心境の変化を見逃さないように努めていく。 ◇保護者がきちんと意見をまとめられるように進路に関する情報提供をこまめに行い、理解啓発を促進していく。
			イ 教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた学習支援の充実に努める。また、ICTを適切に活用し、基礎学力の向上に努める。	2-①②③	B	
	II	(1) 生徒一人一人が自立生活や社会参加するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。	ア 卒業後の自立と社会参加に向け、学習内容を精選し、実態に合った改善をしながら、実践的・体験的な学習活動を充実させる。	2-③	B	○生活グループの生活単元学習では畑で植物を育て日々管理したり、掃除の仕方を学び取り組んだり実践的・体験的な活動を充実させることができた。また、話し合い活動を学習に取り入れ、気持ちの表出をする機会を多く設定することができた。 ○職業グループのオンライン出前授業では、シャープ特選工業株式会社に「働く先輩から学ぶ」のテーマで授業をしていただいた。卒業後の社会参加に向けて、自分たちがどんな力をつけていくべきかを考える機会となった。またすべての授業でICT機器を使用することでWord、Excel、PowerPoint等のスキルや情報を効果的に集める力など、情報活用能力を育成することができた。 ○作業学習では、「Kogaインクルーシブフェスティバル」にて販売活動を行い、体験的な学習活動を行うことができた。 ◇生活単元学習のお楽しみ会では、生活グループと職業グループが合同で活動することができた。今後は、お楽しみ会の計画段階から協力し、話し合いの場を設け、自己選択できる機会を多く設定できるようにしたい。また、他の授業でも年間計画の段階で合同授業を行う単元を検討し、計画的に進めていきたい。
			イ 他のグループと連携を図り、話し合いの場や自己選択・自己決定する場を設け、自分の気持ちを表出する機会を多く設定する。	2-③	B	
			ウ パソコンやタブレット端末などのICT機器を授業で活用し、情報収集・整理・分析・表現・発信を適切に行うことができる力を高められるようにする。場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。	2-②③	B	

(2)	生徒のニーズ、卒業後の進路等を把握し、保護者や学部、学年及び関係機関と連携し、情報の共有を図る。	ア	進路指導主事との連携、外部講師、地域の人材などを積極的に活用し、卒業後の進路に応じた学習内容を授業へ取り入れる機会を設ける。	2-③ 3-① 4-④	B	B	○両グループともに、進路指導主事との連携を密にし、卒業後の進路に応じた学習内容を授業へ取り入れることができた。職業グループでは、沖ワークウエルやNTTデータだいちと卒業後の在宅ワークを想定した遠隔実習を行ったり、外部講師を招いて将来の生活に関わる租税教室を開催したりすることができた。 △職業グループは、グループ外の教師にも授業を担当してもらっている。グループ会では、グループ外の教員を含めて話し合う機会が取れていなかった。今後は授業を担当する全教員で話し合う機会を定期的を設定し、それぞれの授業での生徒の様子を共通理解することで、生徒の実態を多面的に把握したり、一貫した指導を行ったりしていきたい。
		イ	グループ会等で、生徒の情報や各授業の様子などを共有することで、生徒の課題を見つけ、次の授業に活かすことができるようにする。	1-① 2-③	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果及び次年度への改善	
各教科の指導	Ⅲ (1)	健康の維持・増進に努め、生活のリズムや生活習慣の形成を図る。	ア	目視による健康観察や健康維持のための水分補給、検温、血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	1-①	B	○登校時に連絡帳や保護者との話、また検温、SPO2測定、本人の様子の観察など、多様な観点から状態を把握し、生徒に応じた個別活動や授業を行うことができた。また、いつもと様子が違うと感じた時も、すぐに検温等対応することができた。 ●非接触体温計の体温にばらつきがあるため、正しい測り方の共通理解を図る必要がある。 ●生徒の体調や状態などの情報や対応を、教師間で伝達しながら共通理解と協力体制を図っていくことが重要である。
			イ	朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行い、生徒自身が生活リズムを意識できるようにする。	1-①	B	
			ウ	教師間の情報交換を密に行うとともに、家庭・医療機関においても連絡帳や連絡ノート等で連携を図り、個々の支援に活かすように努める。	1-① 1-③	B	
	(2)	豊かな心の育成を目指し、人やものとのかかわりを通して興味関心の幅を広げ、感情や意思の表出と人やものに主体的にかかわる意欲の伸長を図る。	ア	生徒自らの主体性や意思の表出を図るため、人やものとかかわる時間を十分に設け、教材教具の工夫、ICTの活用を図る。	2-①②	B	○感染症対応により、学年内や他学年との交流の機会が減ったが、学年内においてできる限りの感染症対策を行った。 ●感染症対応のため、7グループとなり、教材教具を多く準備するほか、T1間の情報共有に、例年以上の時間がかかった。大きな教室を確保している「うんどう」「リズム」などの授業において、縦割り授業を実施、グループも通常より多めの人数にすることで、授業準備時間の削減、他学年との直接交流の機会となると考えられる。 ●ICT、アプリなどの研修機会の確保。WiFiの安定化。 ●交流が10～12月に集中して実施され、事前授業など準備が追いつかなかった。参加生徒が少ない日もあった。相手もあり困難だが、交流の精選。交流日の保護者への事前周知が必要か。
			イ	感染対策を取りながら、授業の内容によって学習集団を工夫しながら、いろいろな友だちや教師との関わりを図る。	1-①	C	
			ウ	交流及び共同学習を計画的に行い、変化に対しても見通しをもって安心して取り組めるように、生徒の実態に応じて適切な配慮・支援に努める。	3-①	C	
	(3)	感覚機能や運動機能を高め、A DLの維持・向上を図る。	ア	マッサージ、ストレッチ、運動等を行い、身体機能の維持・向上に努める。	2-③	B	◇隣の音楽室から聞こえる音により学習に集中できない生徒もいた。教室配置の工夫が必要。 ◇5人の生徒を教師3人で授業する等、卒業後の生活に向けての支援を考えていく場面を増やしていきたい。(生徒4名・教師2名は難しいため教師3名になることが多かった。)
			イ	感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	2-③	B	